

# 景況調査

報告書 NO. 89

令和2年10月～12月 実績  
令和3年 1月～ 3月 見通し



蒲郡商工会議所  
中小企業相談所

# 令和2年度第3四半期(R2.10~12月)景況調査

1. 調査時点 令和2年12月10日~12月25日  
 2. 調査対象

(1)対象地区 蒲郡市内  
 (2)対象(回答)企業 108[101企業、7団体=三河織物工業(協)、中部繊維ロープ工業(協)、蒲郡市上下水道工事(協)、蒲郡建設業(協)、三河繊維産元(協)、蒲郡地区旅館組合、蒲郡鉄工会]

3. 調査方法 聞き取り調査によるアンケート調査

業種	製造業	建設業	卸売業	小売業	サービス業	運輸通信業	全業種
合計	50 (3)	8 (2)	14 (1)	17	9 (1)	10	108 (7)

※ ( )は団体

## 5. 概況

全業種総合判断DI値(当期実績)は、前期比では△1.0、前期実績(7~9月△15.4)に比較すると14.4ポイントの上昇・横バイの傾向が見られ、前年同期比では、△43.5、前期実績(7~9月△58.6)と比較すると15.1ポイントの上昇・悪化の傾向が見られた。売上DI値は、前期比で12.1、前期実績(7~9月△3.2)と比較すると15.3ポイントの上昇・改善の傾向が見られた。収益DI値は、前期比で0.9、前期実績(7~9月△17.8)と比較すると18.7ポイントの上昇・改善の傾向が見られた。総合判断来期(R3.1~3月)見通しは、△16.7、今期の実績(全業種(当期実績)前期比△1.0)と比較すると△15.7ポイントの下降・悪化の傾向が見られた。

「**製造業**」のうち食料品は年末の需要期で売上等は改善するも、前年同期比ではやや下回った。繊維物は新型コロナの影響による経済活動全体の低迷、低価格帯志向等で厳しい状況であるが、前期比で売上は上昇し、底は脱したか。漁網・ロープ前年同期比で、生産量は2割程度、販売数量・金額は1割程度の減少。11月以降動きが鈍い。鉄工のうち工作機械関係は内需は前年比で8~9割程度も、外需のうち東アジアが対前年比を上回る。当地区においては予断を許さない状況だが回復途上。自動車関係は比較的堅調でトヨタの国内日当たり生産は1万2千台水準を維持。化学工業は新型コロナの影響は、海外市場を中心に薄まりつつある。プラスチックは製造業全体に活性化の兆しがあり、回復傾向にある。

「**建設業**」は、前年同期比、前期比共に下回った。

「**卸売業**」のうち、繊維卸は<産業資材>車両用基布は夏頃から回復傾向。他の資材は遅れていたが、11月以降の第3波のなか産業資材用基布にも動きが戻ってきた。<インテリア>10月は堅調。シーズン品も安定した出荷。11月にやや落ち着いた感があるも、コロナ禍の巣ごもり需要で売上は安定。<アパレル>アパレル向け生地は壊滅状態で動きのある生地がない。

「**小売業**」は年末の需要期にあたが、前年同期比・前期比ともほぼ全ての数値で下回る状況となった。飲食はプレミアム付商品券やGoToイートなどの消費刺激策の効果もあって、10~12月前半にかけては持ち直しの動きもあったが、緊急事態宣言や自粛要請もあり、団体利用は消滅。消費意欲も沈滞した。

。石油等その他小売は原油価格(WTI期近物)は10~11月は概ね40ドル台で推移してきた。12月に入り、ワクチン接種の開始による需要回復への期待を受けて緩やかに50ドル台へ推移。

「**サービス業**」のうち旅館関係10~11月初旬はGoToトラベルで活況も、それ以降は第三波でキャンセル続発(一旅館あたり数千人規模)。通年では例年の半数程度の宿泊者数になった。旅行形態も個人旅行が主流で、団体・小グループ・忘年会がなく売上は厳しい。GoToのキャンセル料も詳細が不透明で、関係者に行きわたるかやや不安がある。

「**運輸通信業**」貨物輸送では完成車輸出は北米・欧州不振で対前年比半減。海上コンテナ貨物は中国向け中心に好調を維持し。鋼材移入は月間1万tを割り込む状況が続く。旅客関係では僅かに動きは出てきたが、前年同期比で売上8割減。

設備投資状況は、31事業所(37件)で設備投資が実施され、生産設備他に投資された。来期は19事業所(25件)が設備投資を計画している。

経営上の問題点では売上の停滞・減少、利幅の縮小、人件費の増加、人手不足、競争激化が項目別で上位を占めており、売上の停滞・減少を訴える企業が71.3%に到っている。

当地区において 令和2年度第3四半期は、第1四半期を底に2期連続で改善傾向を示す指標が増えたが、前年同期比での足取りは未だ重い状況。業種毎に異なるが、巣ごもり需要による消費者ニーズの変化。東アジアの外需に後押しされた製造業の回復が鮮明になる一方、11月以降の感染再拡大でGoToキャンペーン等の消費喚起策が抑制され、飲食・観光等は再び苦境に陥っている。経営上の問題点で売上の減少を訴える声が未だ8割を占め、地方における個人消費停滞と景気の減速に加えて、大変厳しい状況となっている。

### 全業種(当期実績)

(DI 単位:%)

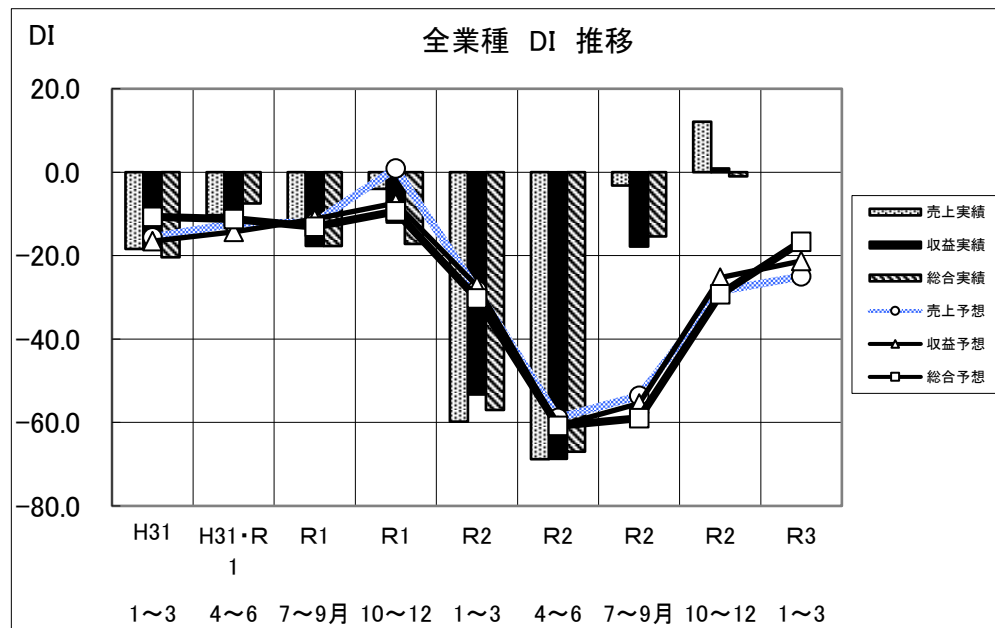
### <全業種 各項目別推移>

(DI 単位:%)

	前年同期比 令和元年10月~12月 に比べて	前期比 令和2年7月~9月 に比べて	来期見通し 令和3年1月~3月 の見通し		売上		収益		総合判断		
					前年同期比	前期比	前年同期比	前期比	前年同期比	前期比	来期見通し
①生産額・売上額	-56.5	12.1	-25.0	R1. 10~12月実績	-25.3	-4.0	-22.2	-12.1	-27.2	-17.2	-30.3
②製品・商品在庫	-8.3	-4.6	-5.5	R2. 1~3月実績	-58.0	-59.8	-50.5	-53.3	-55.1	-57.0	-60.8
③資金繰り	-18.5	0.9	-13.0	R2. 4~6月実績	-79.4	-68.8	-67.9	-68.7	-71.4	-67.0	-59.0
④採算(収益)	-44.4	0.9	-21.3	R2. 7~9月実績	-72.4	-3.2	-60.2	-17.8	-58.6	-15.4	-29.3
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-4.6	2.8	-8.3	R2. 10~12月実績	-56.5	12.1	-44.4	0.9	-43.5	-1.0	-16.7
⑥貴社の業況(総合判断)	-43.5	-1.0	-16.7								

[総合判断]

業種	前年同期比	前期比	見通し	業種	前年同期比	前期比	見通し
全業種				卸売業			
				(繊維卸)			
製造業				小売業			
(食料品)				(飲食)			
(織物)				(石油等その他小売)			
(漁網・ロープ)				サービス業			
(鉄工)				(旅館)			
(化学・プラスチック)				運輸通信業			
建設業				(旅客・貨物輸送・水運)			



<業況判断DIの推移>

	H31.1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	R2.1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	R3.1~3月見通し
売上	-18.4	-10.3	-12.2	-4.0	-59.8	-68.8	-3.2	12.1	-25.0
収益	-17.3	-10.3	-17.7	-12.1	-53.3	-68.7	-17.8	0.9	-21.3
総合	-20.4	-7.5	-17.7	-17.2	-57.0	-67.0	-15.4	-1.0	-16.7

◎DI (デフュージョン・インデックス 業況判断指数)について

DIは景気が上向きか、下向きかを表す指数である。

DI(%)=増加・良好などの割合ー減少・悪化などの割合

(注)生産額・売上額 :DI=(増加)ー(減少)

製品・商品在庫 :DI=(減少)ー(増加)

資金繰り :DI=(好転)ー(悪化)

採算(収益) :DI=(上昇)ー(下降)

従業員数 :DI=(増加)ー(減少)

業況(総合判断):DI=(好転)ー(悪化)

DIが0より大 ⇒ 景気上向き

DIが0 ⇒ 景気横ばい

DIが0より小 ⇒ 景気下向き

(総合判断のDIの目安)

DI 50%以上



DI 6~49%



DI 5~-5%



DI -6~-49%



DI -50%以下



## 6. 業種別報告

### 製造業

売上DI値は16.0、前期実績(7～9月期 △ 10.2)に比して26.2ポイントの上昇、収益DI値は6.0、前期実績(7～9月期 △ 30.5)に比して36.5ポイントの上昇、総合判断DI値は0.0、前期実績(7～9月期 △ 23.8)に比して23.8ポイントの上昇となった。

向こう3カ月の見通し 売上・収益・総合共に水面下の状況となっている。

### 製造業

(DI 単位:%)

	前年同期比 令和元年10月～12月 に比べて	前期比 令和2年7月～9月 に比べて	来期見通し 令和3年1月～3月 の見通し
①生産額・売上額	-52.0	16.0	-12.0
②製品・商品在庫	-14.0	-6.0	-8.0
③資金繰り	-26.0	4.0	-8.0
④採算(収益)	-36.0	6.0	-10.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-2.0	2.0	-10.0
⑥貴社の業況(総合判断)	-46.0	0.0	-6.0

### [食料品]

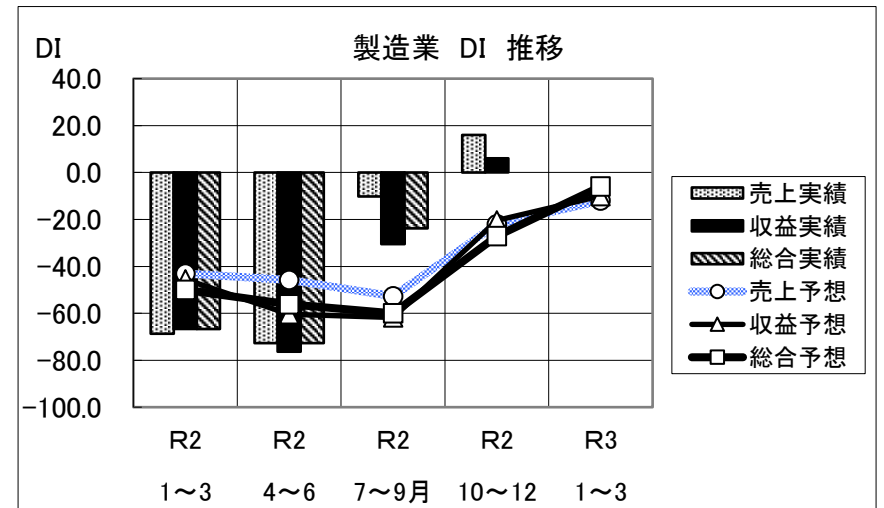
売上は前期比DI値は80.0と上昇、前年同期比ではDI値△ 20.0と下降。収益では、前期比DI値で0.0と横バイ、前年同期比では0.0と横バイ。総合判断では前期比DI値で60.0と上昇、前年同期比はDI値△ 20.0と下降。ほぼ全ての数値で、前期比は状況も対前年比は下降の状況。年末の需要期で売上等は改善するも、前年同期比ではやや下回った。

向こう3ヶ月の見通し 閑散期に入り、売上・収益・総合判断ともに悪化の見通し。ウィズコロナ、アフターコロナで変化する消費者ニーズを捉えた商品を提供できるかが課題となる。

### (食料品)

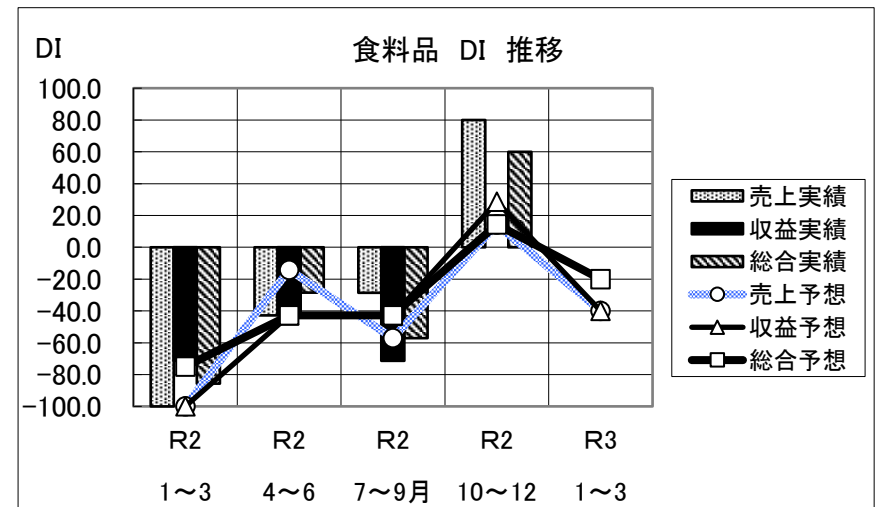
(DI 単位:%)

	前年同期比 令和元年10月～12月 に比べて	前期比 令和2年7月～9月 に比べて	来期見通し 令和3年1月～3月 の見通し
①生産額・売上額	-20.0	80.0	-40.0
②製品・商品在庫	-20.0	-20.0	20.0
③資金繰り	0.0	40.0	0.0
④採算(収益)	0.0	0.0	-40.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	60.0	40.0	-20.0
⑥貴社の業況(総合判断)	-20.0	60.0	-20.0



### <業況判断DIの推移>

	R2.1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	R3.1~3月
売上	-68.7	-72.7	-10.2	16.0	-12.0
収益	-66.7	-76.4	-30.5	6.0	-10.0
総合	-66.7	-72.7	-23.8	0.0	-6.0



### <業況判断DIの推移>

	R2.1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	R3.1~3月
売上	-100.0	-42.8	-28.6	80.0	-40.0
収益	-71.4	-42.8	-71.4	0.0	-40.0
総合	-85.7	-28.5	-57.1	60.0	-20.0

## 【織物】

新型コロナの影響による経済活動全体の低迷、低価格帯志向等で厳しい状況であるが、前期比で売上は上昇し、底は脱したか。

### 向こう3カ月の見通し

新型コロナの影響で今後の見通しが難しいものの、売上・収益などはやや改善傾向にある見込みである。(繊維ロープ部会)

### (織物)

(DI 単位:%)

	前年同期比 令和元年10月～12月 に比べて	前期比 令和2年7月～9月 に比べて	来期見通し 令和3年1月～3月 の見通し
①生産額・売上額	-33.4	33.3	33.3
②製品・商品在庫	-33.3	-33.3	-33.3
③資金繰り	-33.3	-33.3	33.3
④採算(収益)	-66.7	-33.3	33.3
⑤従業員数(含む臨時・パート)	33.3	33.3	0.0
⑥貴社の業況(総合判断)	-66.7	-33.3	33.3

## 【漁網・ロープ】

前年同期比で、生産量は2割程度の減少。販売数量・金額は1割程度の減少となっている。特に11月に入って悪化傾向が強まった。

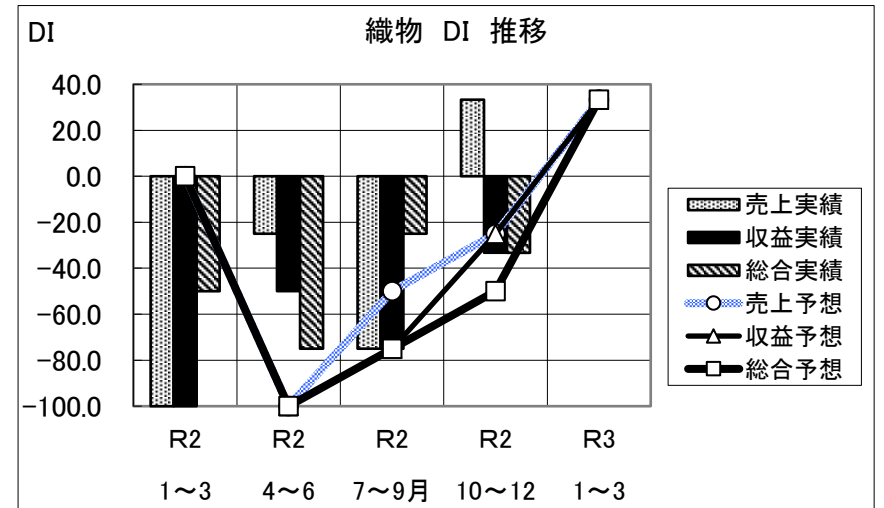
### 向こう3カ月の見通し

コロナウイルスの影響により先行き不透明な状況。(繊維ロープ部会)

### (漁網・ロープ)

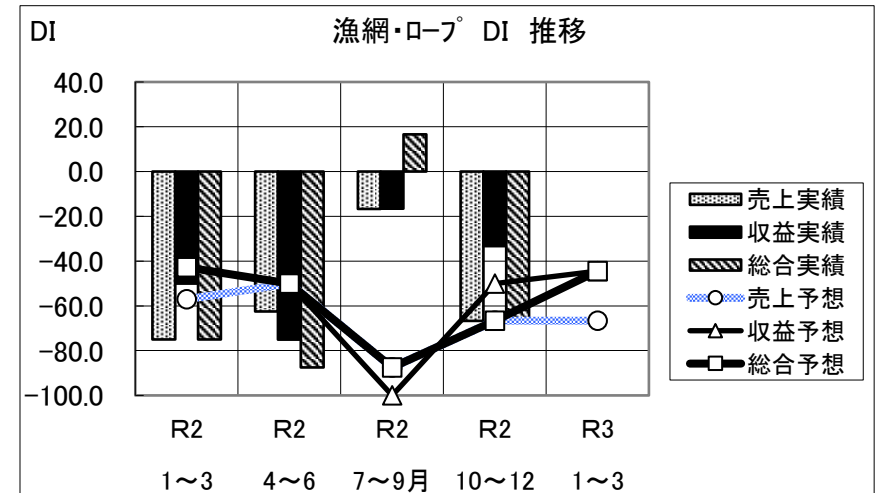
(DI 単位:%)

	前年同期比 令和元年10月～12月 に比べて	前期比 令和2年7月～9月 に比べて	来期見通し 令和3年1月～3月 の見通し
①生産額・売上額	-66.7	-66.7	-66.7
②製品・商品在庫	0.0	-22.2	-22.2
③資金繰り	-22.2	-11.1	-22.2
④採算(収益)	-33.3	-33.3	-44.5
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-33.3	-33.3	-22.2
⑥貴社の業況(総合判断)	-55.6	-66.7	-44.5



### <業況判断DIの推移>

	R2.1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	R3.1~3月
売上	-100.0	-25.0	-75.0	33.3	33.3
収益	-100.0	-50.0	-75.0	-33.3	33.3
総合	-50.0	-75.0	-25.0	-33.3	33.3



### <業況判断DIの推移>

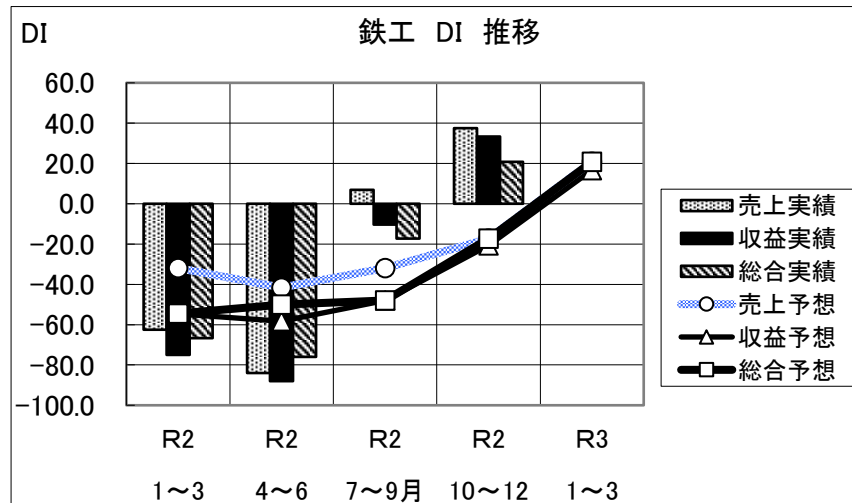
	R2.1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	R3.1~3月
売上	-75.0	-62.5	-16.7	-66.7	-66.7
収益	-50.0	-75.0	-16.6	-33.3	-44.5
総合	-75.0	-87.5	16.6	-66.7	-44.5

## [鉄工]

＜工作機械関係＞ 日本工作機械工業会の受注総額では、10月822億円、11月886億円、12月979億円。内需は前年比で8～9割程度も、外需のうち東アジアが対前年比を上回る。当地区においては予断を許さない状況だが回復途上にある。向こう3カ月の見通し 経済活動再開後も国内企業の投資意欲を反映し慎重な見込み。＜自動車部品関係＞ 比較的堅調でトヨタの国内日当たり生産は1万2千台水準を維持。向こう3カ月の見通し 需要は回復傾向にあり、トヨタの国内日当たり生産は輸出堅調で1万2千台～3千台と、回復基調に入りつつある。(金属鉄工部会)

### (鉄工) (一般機械器具・輸送用機械・精密機械) (DI 単位:%)

	前年同期比 令和元年10月～12月 に比べて	前期比 令和2年7月～9月 に比べて	来期見通し 令和3年1月～3月 の見通し
①生産額・売上額	-45.8	37.5	20.8
②製品・商品在庫	-8.4	8.4	4.2
③資金繰り	-29.1	16.7	4.1
④採算(収益)	-41.6	33.3	16.7
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-8.4	4.2	-8.3
⑥貴社の業況(総合判断)	-45.8	20.8	20.8



#### ＜業況判断DIの推移＞

	R2.1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	R3.1~3月
売上	-62.5	-84.0	6.9	37.5	20.8
収益	-75.0	-88.0	-10.3	33.3	16.7
総合	-66.7	-76.0	-17.3	20.8	20.8

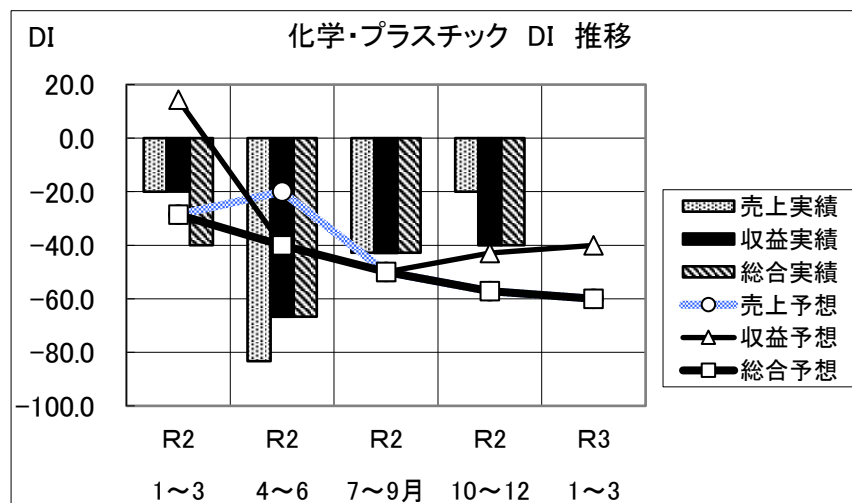
## [化学・プラスチック]

＜化学工業＞ 新型コロナの影響は、海外市場を中心に薄まりつつある。向こう3カ月の見通し 不透明な状況が続くが経済活動の本格化に期待。

＜プラスチック＞ 製造業全体に活性化の兆しがあり、回復傾向にある。向こう3カ月の見通し 新型コロナによる需要の停滞がどこまで続くか先行きが不透明である。(化学部会)

### (化学・プラスチック) (DI 単位:%)

	前年同期比 令和元年10月～12月 に比べて	前期比 令和2年7月～9月 に比べて	来期見通し 令和3年1月～3月 の見通し
①生産額・売上額	-80.0	-20.0	-60.0
②製品・商品在庫	-40.0	-20.0	-40.0
③資金繰り	-60.0	-40.0	-60.0
④採算(収益)	-40.0	-40.0	-40.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	20.0	0.0	0.0
⑥貴社の業況(総合判断)	-60.0	-40.0	-60.0



#### ＜業況判断DIの推移＞

	R2.1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	R3.1~3月
売上	-20.0	-83.3	-42.8	-20.0	-60.0
収益	-20.0	-66.7	-42.9	-40.0	-40.0
総合	-40.0	-66.7	-42.8	-40.0	-60.0

### 建設業

売上DI値は△ 12.5、前期実績(7～9月期 18.2)に比して△ 30.7ポイントの下降、収益DI値は△ 12.5、前期実績(7～9月期 0.0)に比して△ 12.5ポイントの下降、総合判断DI値は△ 37.5、前期実績(7～9月期 △ 9.1)に比して△ 28.4ポイントの下降となった。

向こう3カ月の見通し 例年であれば公共工事のピークである年度末に向け上昇するが、本年度は売上・収益・総合ともに水面下の慎重な見通し。

### 建設業

(DI 単位:%)

	前年同期比 令和元年10月～12月 に比べて	前期比 令和2年7月～9月 に比べて	来期見通し 令和3年1月～3月 の見通し
①生産額・売上額	-25.0	-12.5	-12.5
②製品・商品在庫	0.0	0.0	0.0
③資金繰り	-12.5	-12.5	-25.0
④採算(収益)	-25.0	-12.5	-25.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	12.5	12.5	0.0
⑥貴社の業況(総合判断)	-25.0	-37.5	-25.0

### 卸売業

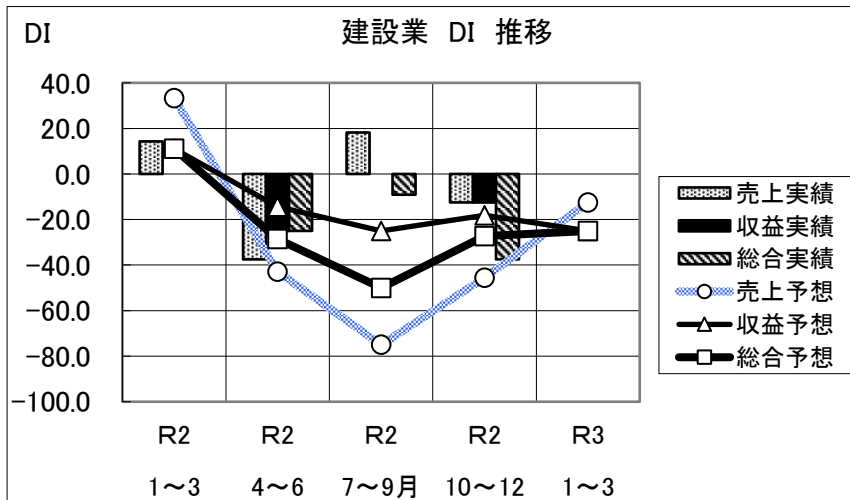
売上DI値は21.5、前期実績(7～9月期 △ 21.4)に比して42.9ポイントの上昇、収益DI値は0.0、前期実績(7～9月期 △ 7.1)に比して7.1ポイントの上昇、総合判断DI値は0.0、前期実績(7～9月期 7.2)に比して△ 7.2ポイントの下降となった。

向こう3カ月の見通し 年末の需要期を抜けて、売上・収益・総合ともに大きく下降の見通しとなっている。

### 卸売業

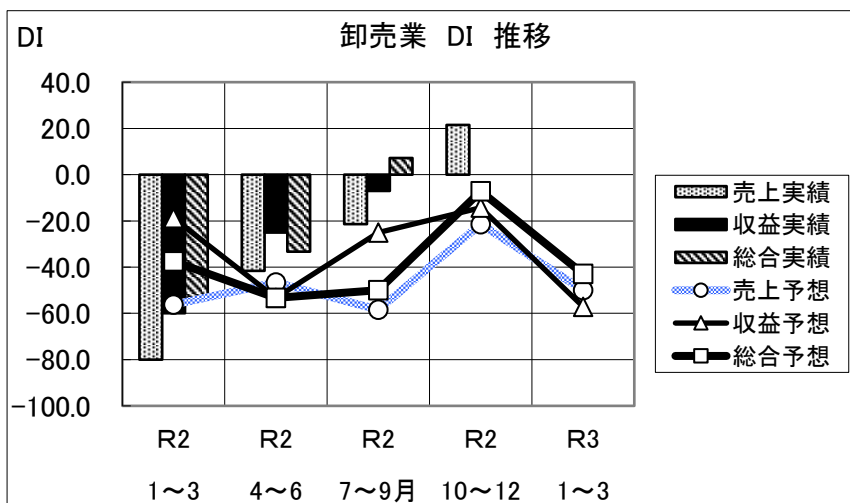
(DI 単位:%)

	前年同期比 令和元年10月～12月 に比べて	前期比 令和2年7月～9月 に比べて	来期見通し 令和3年1月～3月 の見通し
①生産額・売上額	-57.2	21.5	-50.0
②製品・商品在庫	0.0	-7.2	-7.1
③資金繰り	14.3	7.1	-7.1
④採算(収益)	-28.6	0.0	-57.1
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-14.3	7.2	-7.2
⑥貴社の業況(総合判断)	-28.6	0.0	-42.9



<業況判断DIの推移>

	R2.1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	R3.1～3月
売上	14.3	-37.5	18.2	-12.5	-12.5
収益	0.0	-25.0	0.0	-12.5	-25.0
総合	0.0	-25.0	-9.1	-37.5	-25.0



<業況判断DIの推移>

	R2.1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	R3.1～3月
売上	-80.0	-41.6	-21.4	21.5	-50.0
収益	-60.0	-25.0	-7.1	0.0	-57.1
総合	-53.3	-33.3	7.2	0.0	-42.9

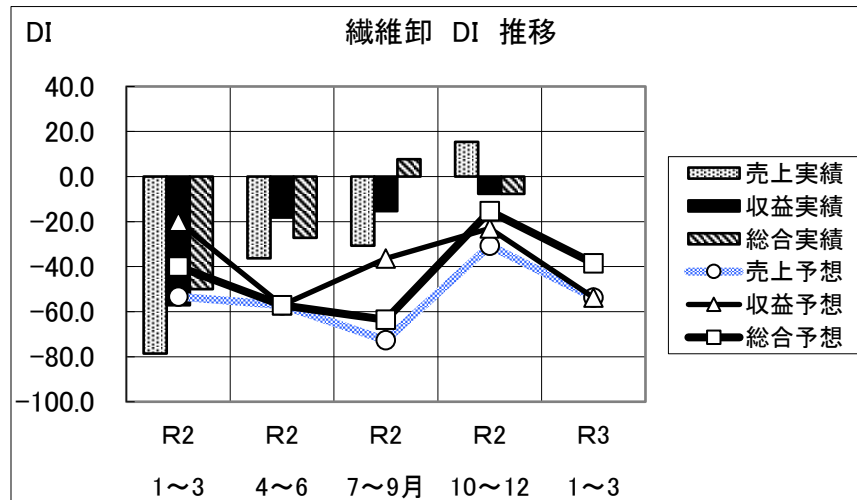
## 【繊維卸】

＜産業資材＞車両用基布は夏頃から回復傾向。他の資材は遅れていたが、11月以降の第3波のなか産業資材用基布にも動きが戻ってきた。向こう3カ月の見通し 以前として不透明であるが、新しい生活環境のなか、多品種・小ロット・短納期＋高品質なものづくりが重要。＜インテリア＞10月は堅調。シーズン品も安定した出荷。11月にやや落ち着いた感があるも、コロナ禍の巣ごもり需要で売上は安定。向こう3カ月の見通し コロナ禍で不透明な状況も、2020年の推移を踏まえると1～2月は昨年並。3月も売上は確保できる見込み。＜アパレル＞アパレル向け生地は壊滅状態で動きのある生地がない。向こう3カ月の見通し アパレル向け生地は壊滅状態でニーズが読めず極めて不透明。(繊維部会)

## (繊維卸)

(DI 単位:%)

	前年同期比 令和元年10月～12月 に比べて	前期比 令和2年7月～9月 に比べて	来期見通し 令和3年1月～3月 の見通し
①生産額・売上額	-53.8	15.4	-53.8
②製品・商品在庫	0.0	0.0	-7.7
③資金繰り	15.4	7.7	-7.7
④採算(収益)	-23.1	-7.7	-53.8
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-15.4	0.0	-7.7
⑥貴社の業況(総合判断)	-23.1	-7.7	-38.5



## ＜業況判断DIの推移＞

	R2.1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	R3.1~3月
売上	-78.6	-36.3	-30.7	15.4	-53.8
収益	-57.1	-18.2	-15.4	-7.7	-53.8
総合	-50.0	-27.2	7.7	-7.7	-38.5

## 小売業

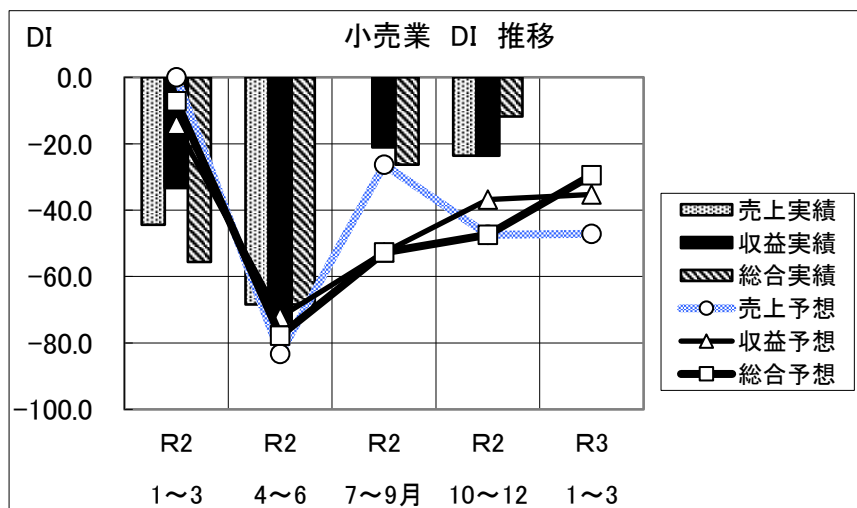
売上DI値は△ 23.6、前期実績(7～9月期 0.0)に比して△ 23.6ポイントの下降、収益DI値は△ 23.6、前期実績(7～9月期 △ 21.1)に比して△ 2.5ポイントの下降、総合判断DI値は△ 11.8、前期実績(7～9月期 △ 26.3)に比して14.5ポイントの上昇となった。年末の需要期にあたが、前年同期比・前期比ともほぼ全ての数値で下回る状況となった。

向こう3カ月の見通し 年末年始のピークを過ぎて、売上・収益・総合ともに下降の見通しとなっている。消費の質の変化に着目してニーズを捉えたい。(商業部会)

## 小売業

(DI 単位:%)

	前年同期比 令和元年10月～12月 に比べて	前期比 令和2年7月～9月 に比べて	来期見通し 令和3年1月～3月 の見通し
①生産額・売上額	-58.9	-23.6	-47.1
②製品・商品在庫	-5.9	-5.9	-5.9
③資金繰り	-23.5	-11.7	-35.3
④採算(収益)	-58.8	-23.6	-35.3
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-5.9	0.0	0.0
⑥貴社の業況(総合判断)	-29.5	-11.8	-29.5



## ＜業況判断DIの推移＞

	R2.1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	R3.1~3月
売上	-44.4	-68.4	0.0	-23.6	-47.1
収益	-33.3	-73.6	-21.1	-23.6	-35.3
総合	-55.6	-68.4	-26.3	-11.8	-29.5



## [飲食]

プレミアム付商品券やGoToイートなどの消費刺激策の効果もあって、10～12月前半にかけては持ち直しの動きもあったが、緊急事態宣言や自粛要請もあり、団体利用は消滅。消費意欲も沈滞した。

### 向こう3カ月の見通し

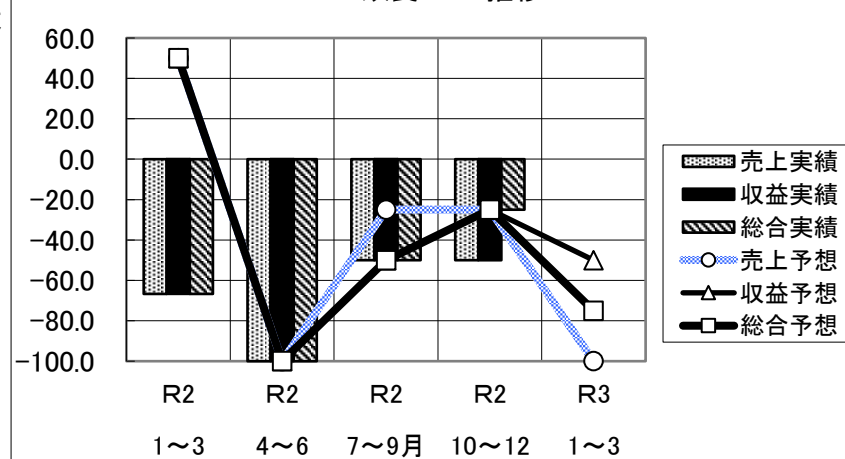
3月まで延長された緊急事態宣言の影響で不透明。協力金等の制度で耐え忍ぶ状況。感染拡大の抑制と消費刺激策による後押しに期待。(蒲郡市飲食業環境衛生組合連合会)

### (飲食)

(DI 単位: %)

	前年同期比 令和元年10月～12月 に比べて	前期比 令和2年7月～9月 に比べて	来期見通し 令和3年1月～3月 の見通し
①生産額・売上額	-50.0	-50.0	-100.0
②製品・商品在庫	0.0	0.0	0.0
③資金繰り	-25.0	-25.0	-75.0
④採算(収益)	-50.0	-50.0	-50.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	0.0	0.0	0.0
⑥貴社の業況(総合判断)	-25.0	-25.0	-75.0

## 飲食 DI 推移



### <業況判断DIの推移>

	R2.1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	R3.1～3月
売上	-66.7	-100.0	-50.0	-50.0	-100.0
収益	-66.7	-100.0	-50.0	-50.0	-50.0
総合	-66.7	-100.0	-50.0	-25.0	-75.0

## [石油等その他小売]

原油価格(WTI 期近物)は新型コロナの影響による世界経済失速・原油需要減退懸念をうけた産油国の協調減産もあったが、10～11月は概ね40ドル台で推移してきた。12月に入り、ワクチン接種の開始による需要回復への期待を受けて緩やかに50ドル台へ推移。

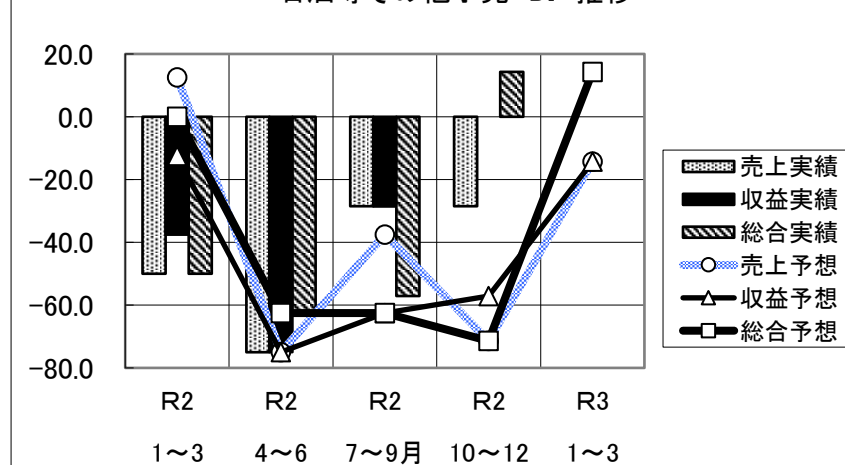
向こう3カ月の見通し 原油は需要超過が続いており、東アジアを中心とした経済活動の拡大により、今後も緩やかに上昇傾向が続くとみられている。(エネルギー部会)

### (石油等その他小売)

(DI 単位: %)

	前年同期比 令和元年10月～12月 に比べて	前期比 令和2年7月～9月 に比べて	来期見通し 令和3年1月～3月 の見通し
①生産額・売上額	-85.7	-28.5	-14.3
②製品・商品在庫	0.0	0.0	0.0
③資金繰り	-14.3	14.3	0.0
④採算(収益)	-85.7	0.0	-14.3
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-14.3	0.0	0.0
⑥貴社の業況(総合判断)	-42.9	14.3	14.3

## 石油等その他小売 DI 推移



### <業況判断DIの推移>

	R2.1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	R3.1～3月
売上	-50.0	-75.0	-28.5	-28.5	-14.3
収益	-37.5	-75.0	-28.6	0.0	-14.3
総合	-50.0	-62.5	-57.1	14.3	14.3

## サービス業

売上DI値は33.3、前期実績(7~9月期 10.0)に比して23.3ポイントの上昇、収益DI値は33.3、前期実績(7~9月期 20.0)に比して13.3ポイントの上昇、総合判断DI値は44.4、前期実績(7~9月期 0.0)に比して44.4ポイントの上昇となった。売上・収益・総合とも全指標で改善。各種キャンペーン等の消費刺激策もあって持ち直しの動き。

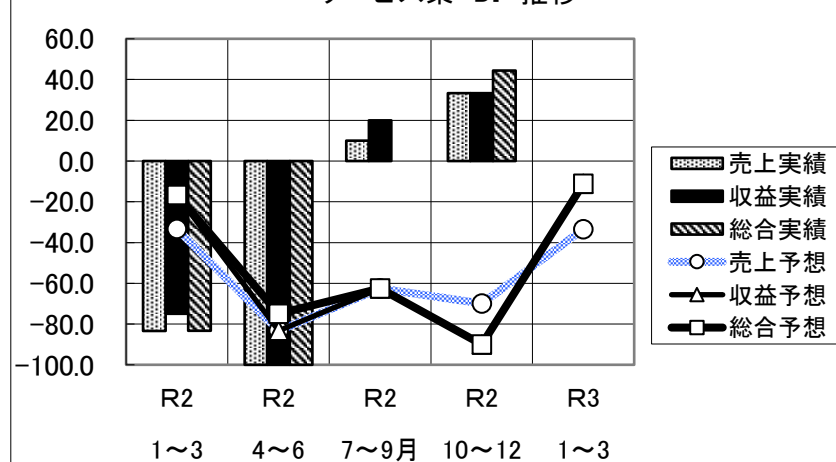
向こう3カ月の見通し 感染再拡大と緊急事態宣言発令に伴う自粛要請の影響もあり、慎重な見通しとなっている。

### サービス業

(DI 単位: %)

	前年同期比 令和元年10月~12月 に比べて	前期比 令和2年7月~9月 に比べて	来期見通し 令和3年1月~3月 の見通し
①生産額・売上額	-66.7	33.3	-33.4
②製品・商品在庫	0.0	0.0	0.0
③資金繰り	-33.3	22.2	-11.1
④採算(収益)	-55.6	33.3	-11.1
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-11.1	11.1	-11.1
⑥貴社の業況(総合判断)	-44.4	44.4	-11.1

### サービス業 DI 推移



#### <業況判断DIの推移>

	R2.1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	R3.1~3月
売上	-83.4	-100.0	10.0	33.3	-33.4
収益	-75.0	-100.0	20.0	33.3	-11.1
総合	-83.3	-100.0	0.0	44.4	-11.1

## 【旅館】

10~11月初旬はGoToトラベルで活況も、それ以降は第三波でキャンセル続発(一旅館あたり数千規模)。通年では例年の半数程度の宿泊者数になった。旅行形態も個人旅行が主流で、団体・小グループ・忘年会がなく売上は厳しい。GoToのキャンセル料も詳細が不透明で、関係者に行きわたるかやや不安がある。

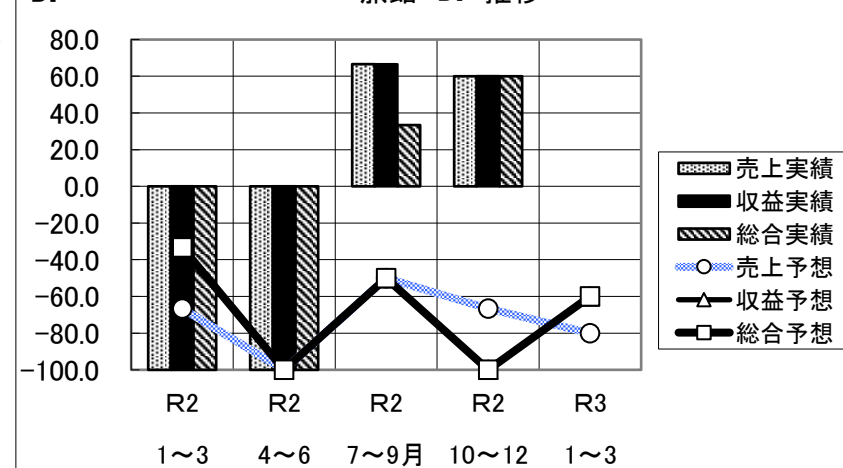
向こう3カ月の見通し GoToトラベル再開を含め旅行需要の見通しが立たず不透明。雇用維持のため、雇用調整助成金等の活用と休館をセットで進める施設も増えているため期間延長を要望したい。当面は個人旅行が主流になるが、小まめな消毒・清掃等に人手と費用が必要。コロナ対策をした上で企業努力を続けるほかない。(観光部会)

### (旅館)

(DI 単位: %)

	前年同期比 令和元年10月~12月 に比べて	前期比 令和2年7月~9月 に比べて	来期見通し 令和3年1月~3月 の見通し
①生産額・売上額	-80.0	60.0	-80.0
②製品・商品在庫	0.0	0.0	0.0
③資金繰り	-80.0	40.0	-20.0
④採算(収益)	-60.0	60.0	-60.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-20.0	20.0	-20.0
⑥貴社の業況(総合判断)	-60.0	60.0	-60.0

### 旅館 DI 推移



#### <業況判断DIの推移>

	R2.1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	R3.1~3月
売上	-100.0	-100.0	66.6	60.0	-80.0
収益	-100.0	-100.0	66.6	60.0	-60.0
総合	-100.0	-100.0	33.4	60.0	-60.0

## 運輸通信業

売上DI値は40.0、前期実績(7~9月期 20.0)に比して20.0ポイントの上昇、収益DI値は0.0、前期実績(7~9月期 Δ 10.0)に比して10.0ポイントの上昇、総合判断DI値は0.0、前期実績(7~9月期 0.0)に比して0.0ポイントの横バイとなった。前期比ベースでは売上は上昇、収益・総合判断は横バイとなった。しかしながら、前年同期比では全指標で水面下となった。

向こう3カ月の見通し 経済活動の正常化が遅れており、売上・収益・総合ともに慎重な見通しとなっている。

## 運輸通信業

(DI 単位:%)

	前年同期比 令和元年10月~12月 に比べて	前期比 令和2年7月~9月 に比べて	来期見通し 令和3年1月~3月 の見通し
①生産額・売上額	-90.0	40.0	-20.0
②製品・商品在庫	-10.0	0.0	0.0
③資金繰り	-10.0	-10.0	0.0
④採算(収益)	-90.0	0.0	-10.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-10.0	-10.0	-20.0
⑥貴社の業況(総合判断)	-90.0	0.0	-10.0

## [旅客・貨物輸送・水運]

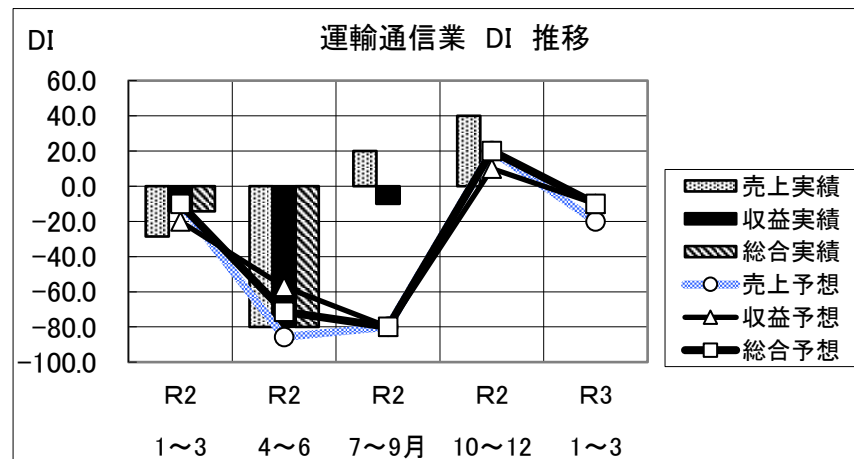
<貨物輸送> 完成車輸出は北米・欧州不振で対前年比半減。海上コンテナ貨物は中国向け中心に好調を維持し。鋼材移入は月間1万tを割り込む状況が続く。向こう3カ月の見通し 完成車輸出は新型車による販売増を見込む。海上コンテナ貨物輸出は中国向け堅調。鋼材移入は引き続き月間1万tを割り込む見込み。

<旅客> 僅かに動きは出てきたが、前年同期比で売上8割減。(運輸交通港湾部会)

## (旅客・貨物輸送・水運)

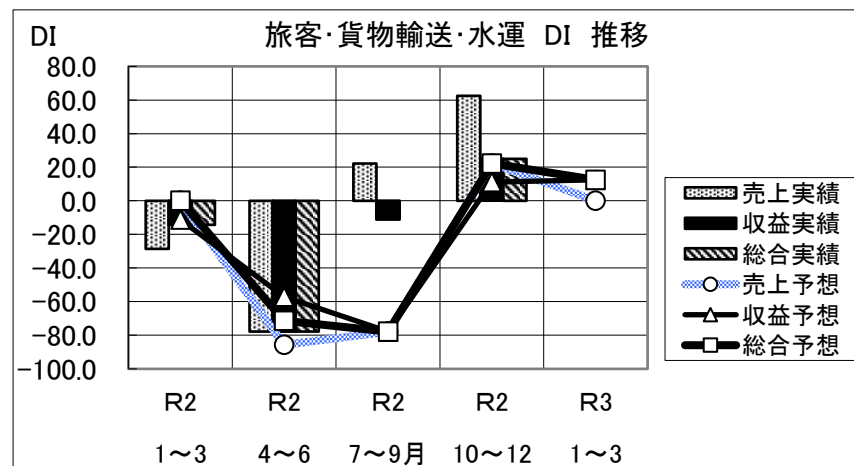
(DI 単位:%)

	前年同期比 令和元年10月~12月 に比べて	前期比 令和2年7月~9月 に比べて	来期見通し 令和3年1月~3月 の見通し
①生産額・売上額	-87.5	62.5	0.0
②製品・商品在庫	0.0	12.5	12.5
③資金繰り	-12.5	-12.5	0.0
④採算(収益)	-87.5	25.0	12.5
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-12.5	-12.5	-25.0
⑥貴社の業況(総合判断)	-87.5	25.0	12.5



## <業況判断DIの推移>

	R2.1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	R3.1~3月
売上	-28.6	-80.0	20.0	40.0	-20.0
収益	-14.3	-80.0	-10.0	0.0	-10.0
総合	-14.3	-80.0	0.0	0.0	-10.0

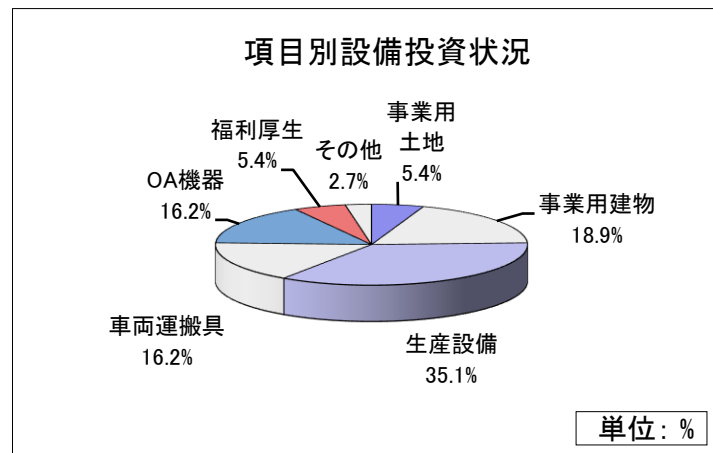
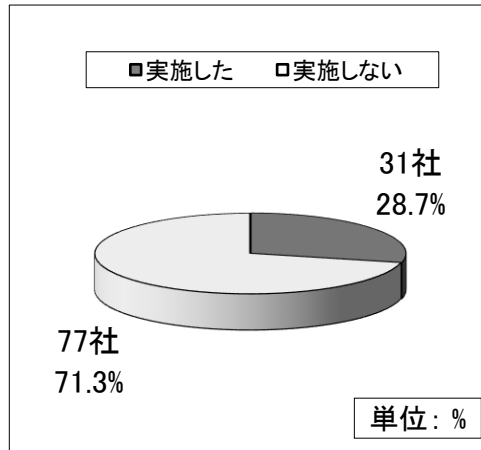


## <業況判断DIの推移>

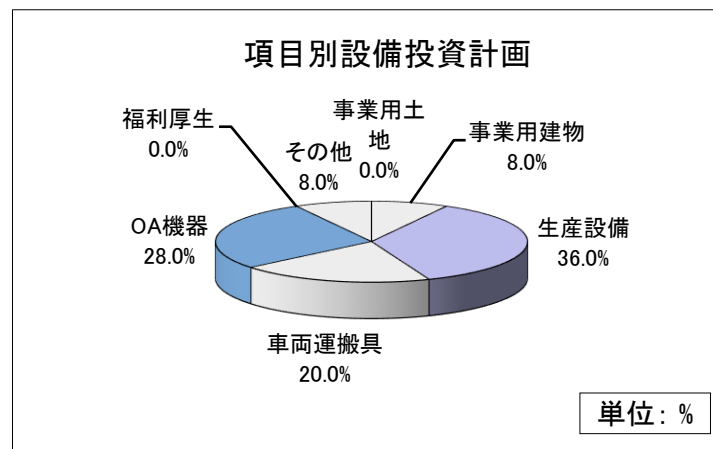
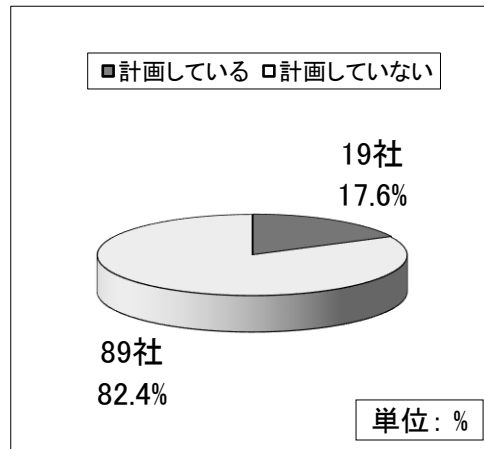
	R2.1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	R3.1~3月
売上	-28.6	-77.8	22.2	62.5	0.0
収益	-14.3	-77.8	-11.1	25.0	12.5
総合	-14.3	-77.8	0.0	25.0	12.5

## 7. 設備投資動向

＜今期(R2.10～12月)設備投資実施状況 全業種＞



＜来期(R3.1月～3月)設備計画 全業種＞



◎設備投資・計画内容(全業種)

	今 期	来期見通し
事業用土地	2	0
事業用建物	7	2
生産設備	13	9
車両運搬具	6	5
OA機器	6	7
福利厚生	2	0
その他	1	2
計	37	25

(単位：件)

◎今期(R2.10～12月)、来期(R3.1～3月)設備投資実施、計画動向

	全業種	製造業	建設業	卸売業	小売業	サービス業	運輸通信業
1. 今期 (R2.10～12月)	31	15	2	2	5	2	5
2. 来期 (R3.1～3月)	19	11	1	1	0	2	4

(単位：事業所)

## 8. 経営上の問題点

### 項目別経営上の問題点(全業種)

(上位5項目 回答企業数 108 社)

	項目	件数 %
1	売上の停滞・減少	77 71.3%
2	利幅の縮小	53 49.1%
3	人件費の増加	24 22.2%
4	人手不足	23 21.3%
5	競争激化	21 19.4%

(複数回答の為、総数と一致しません。)

### 業種別経営上の問題点

(上位3項目)

	1 位	2 位	3 位
製造業 50 社	売上の停滞・減少 36 社 72.0%	利幅の縮小 27 社 54.0%	人件費の増加 12 社 24.0%
建設業 8 社	人件費の増加 5 社 62.5%	売上の停滞・減少 4 社 50.0%	利幅の縮小 3 社 37.5%
卸売業 14 社	売上の停滞・減少 10 社 71.4%	利幅の縮小 5 社 35.7%	在庫過多 4 社 28.6%
小売業 17 社	売上の停滞・減少 11 社 64.7%	利幅の縮小 8 社 47.1%	競争激化 7 社 41.2%
サービス業 9 社	売上の停滞・減少 8 社 88.9%	利幅の縮小 5 社 55.6%	消費者ニーズの変化の対応 4 社 44.4%
運輸通信業 10 社	売上の停滞・減少 8 社 80.0%	利幅の縮小 5 社 50.0%	合理化の不足 3 社 30.0%

(複数回答の為、総数と一致しません。)

付帯調査(地域データ)

No.89

番号	調査項目	単位	R03.02報告	基準日	R02.11報告	基準日	R02.07報告	基準日	R02.05報告	基準日	出典
1	人口	人	79,684	R2.12.1	79,762	R2.10.1	79,968	R2.7.1	80,037	R2.4.1	蒲郡市市民課 住民基本台帳
	(うち外国人)		3,236		3,228		3,230		3,277		
2	世帯数	世帯	32,979	R2.12.1	32,953	R2.10.1	32,962	R2.7.1	32,921	R2.4.1	"
	(うち外国人)		1,592		1,603		1,642		1,648		
3	15才～65才生産人口	人	47,562	R2.12.1	46,681	R2.10.1			46,946	R2.4.1	"
	(うち外国人)		2,663		2,660				2,712		
4	全国完全失業率	%		R2.10～12月	3.0	R2.7～9月	2.8	R2.4～6月	2.4%	□ R2.1～3月	総務省 「労働力調査」
	愛知県完全失業率	%		R2.10～12月	3.0	R2.7～9月	2.3	R2.4～6月	2.1	R110月～12月	愛知県 「労働力調査地方集計結果」
5	全国有効求人倍率	倍	1.06	R02.12月	1.03	R2.9月	1.45	R2.4月	1.45	R2.2月	厚生労働省 「一般職業紹介状況(職業安定業務統計)」
	蒲郡管内有効求人倍率	倍	0.63	R02.11月	0.76	R2.8月	0.34	R2.4月	1.20	R1.12月	豊川公共職業安定所蒲郡出張所 業務月報より

全国一ヶ月

	労働			設備投資・住宅投資		GDP・景気動向指数		消費	
	完全失業者数 (万人)	完全失業率 (季調・%)	有効求人倍率 (季調・倍)	機械受注 (船舶を除く)前年同月比(%)	新設住宅着工 (戸数)	名目国内総生産 (兆円)	実質成長率 実質季節調整後系列(前期比)	消費支出 前年同月比(%) (実質)	新車販売台数(登録車) (万台)
1996年度	225	3.3	0.72	11.4	1,630,378	528.8	2.9	1.0	-
1997年度	236	3.5	0.69	▲ 3.9	1,341,347	533.4	0.0	▲ 0.2	-
1998年度	294	4.3	0.50	▲ 18.6	1,179,536	526.0	▲ 0.9	▲ 0.8	-
1999年度	320	4.7	0.49	0.6	1,226,207	521.9	0.7	▲ 1.8	-
2000年度	320	4.7	0.59	16.6	1,213,157	528.4	2.5	▲ 1.2	-
2001年度	340	5.0	0.59	▲ 12.6	1,173,170	519.2		▲ 1.7	46946.0
2002年度	359	5.4	0.54	▲ 3.7	1,145,553	514.9	0.9	0.1	2,712.0
2003年度	350	5.3	0.64	8.2	1,173,649	517.7	2.0	▲ 1.0	588.7
2004年度	313	4.7	0.83	6.5	1,193,038	521.3	1.7	0.4	582.1
2005年度	294	4.4	0.95	5.6	1,249,366	525.6	2.0	▲ 0.4	586.2
2006年度	275	4.1	1.06	5.0	1,285,246	529.0	1.4	▲ 2.2	561.9
2007年度	257	3.9	1.04	2.3	1,035,598	530.9	1.2	0.9	532.0
2008年度	265	4.0	0.88	▲ 16.6	1,039,214	509.5	▲ 3.4	▲ 1.9	470.1
2009年度	336	5.1	0.47	▲ 15.4	775,277	492.0	▲ 2.2	▲ 0.2	488.0
2010年度	334	5.1	0.52	19.4	819,020	499.4	3.3	0.3	460.1
2011年度	284	4.5	0.65	4.2	841,246	494.0	0.5	▲ 2.2	475.3
2012年度	285	4.3	0.80	▲ 7.1	893,002	494.4	0.8	1.1	521.0
2013年度	265	4.0	0.93	10.6	987,254	507.3	2.6	1.0	569.2
2014年度	236	3.6	1.09	8.0	880,470	518.2	▲ 0.4	▲ 2.9	529.7
2015年度	222	3.4	1.23	▲ 1.2	920,537	532.9	1.3	▲ 2.3	493.8
2016年1月	215	3.2	1.28	▲ 11.3	67,815			▲ 3.1	23.7
(平成28年)2月	217	3.3	1.28	▲ 6.7	72,831	135.8	0.5	1.2	27.5
3月	214	3.2	1.30	9.8	75,744			▲ 5.3	40.4
4月	214	3.2	1.34	▲ 1.1	82,398			▲ 0.4	21.2
5月	212	3.2	1.36	▲ 7.3	78,728	134.2	0.1	▲ 1.1	22.3
6月	208	3.2	1.37	1.3	85,953			▲ 2.2	28.7
7月	201	3.1	1.37	▲ 4.2	85,208			▲ 0.5	28.1
8月	208	3.1	1.37	0.2	82,242	132.6	0.2	▲ 4.6	22.3
9月	202	3.0	1.38	▲ 4.5	85,622			▲ 2.1	31.7
10月	198	3.0	1.40	▲ 10.9	87,707			▲ 0.4	24.2
11月	200	3.1	1.41	24.5	85,051	141.6	0.3	▲ 1.5	27.3
12月	202	3.1	1.43	17.3	78,406			▲ 0.3	26.4
2017年1月	202	3.0	1.43	10.7	76,491			▲ 1.2	25.8
(平成29年)2月	192	2.8	1.43	▲ 0.7	70,912	136.2	0.7	▲ 3.8	31.2
3月	187	2.8	1.45	▲ 12.5	75,887			▲ 1.3	46.0
4月	187	2.8	1.48	▲ 0.2	83,979			▲ 1.4	22.4
5月	206	3.1	1.49	8.6	78,481	136.0	0.3	▲ 0.1	23.7
6月	190	2.8	1.51	3.4	87,456			2.3	31.5
7月	189	2.8	1.52	10.5	83,234			▲ 0.2	27.8
8月	185	2.8	1.52	19.7	80,562	135.7	0.8	0.6	23.3
9月	188	2.8	1.52	7.6	83,128			▲ 0.3	31.8
10月	184	2.8	1.55	12.3	83,057			0.0	23.1
11月	180	2.7	1.56	5.8	84,703	145.0	0.4	1.7	25.8
12月	181	2.8	1.59	▲ 6.6	76,751			▲ 0.1	26.2
2018年1月	164	2.4	1.59	8.7	66,358			2.0	24.3
(平成30年)2月	170	2.5	1.58	7.8	69,071	138.8	0.0	0.1	29.6
3月	172	2.5	1.59	▲ 2.8	69,616			▲ 0.2	43.8
4月	172	2.5	1.59	11.4	84,226			▲ 1.3	22.5
5月	155	2.2	1.60	15.3	79,539	137.8	0.1	▲ 3.9	23.6
6月	167	2.4	1.62	▲ 4.2	81,275			▲ 1.2	29.2
7月	170	2.4	1.63	11.3	82,615			0.1	28.1
8月	166	2.4	1.63	4.9	81,860	135.1	▲ 0.7	2.8	23.3
9月	161	2.3	1.64	▲ 5.4	81,903			▲ 1.6	30.8
10月	166	2.4	1.62	6.1	83,330			▲ 0.3	26.1
11月	169	2.5	1.63	4.0	84,213	144.3	0.5	▲ 0.6	27.9
12月	164	2.4	1.63	▲ 4.0	78,364			0.1	25.0
2019年1月	172	2.5	1.63	▲ 8.5	67,087			2.0	24.9
(平成31年)2月	160	2.3	1.63	▲ 3.7	71,966	139.5	0.6	1.7	30.0
3月	174	2.5	1.62	▲ 0.2	76,558			2.1	41.7
4月	168	2.4	1.63	▲ 6.0	79,389			1.3	23.0
5月	162	2.4	1.62	▲ 10.1	72,581	139.2	0.1	4.0	24.7
6月	161	2.3	1.61	0.9	81,541			2.7	29.0
7月	154	2.2	1.59	▲ 10.6	79,232			0.8	30.0
8月	154	2.2	1.59	0.9	76,034	137.6	0.2	1.0	24.2
9月	167	2.4	1.58	▲ 6.4	77,915			9.5	34.7
10月	166	2.2	1.58	▲ 8.8	77,123			▲ 5.1	19.2
11月	151	2.2	1.57	▲ 15.2	73,523	144.8	▲ 1.9	▲ 2.0	23.8
12月	145	2.2	1.57	▲ 7.9	72,174			▲ 4.8	22.6
2020年1月	159	2.3	1.49	▲ 0.8	60,341			▲ 3.9	22.1
(令和2年)2月	159	2.4	1.45	▲ 7.7	63,105	137.9	▲ 0.5	▲ 0.3	26.8
3月	176	2.5	1.39	0.1	70,729			▲ 6.0	37.4
4月	189	2.6	1.32	▲ 10.1	69,162			▲ 11.1	17.2
5月	198	2.9	1.20	▲ 20.9	63,839	126.7	▲ 8.3	▲ 16.2	14.7
6月	195	2.8	1.11	▲ 22.4	71,101			▲ 1.2	21.4
7月	197	2.9	1.08	▲ 17.9	70,244			▲ 7.6	23.9
8月	206	3.0	1.04	▲ 17.0	69,101	131.3	5.3	▲ 6.9	19.7
9月	210	3.0	1.03	▲ 1.5	70,186			▲ 10.2	29.3
10月	215	3.1	1.04	▲ 1.2	70,685			1.9	25.3
11月	195	2.9	1.06	1.3	70,798			1.1	25.3
12月			1.06		65,643			▲ 0.6	24.3

(内閣府)

(国土交通省)

(内閣府)

(総務省)

(自販連統計)